

18 株式会社デジタルプレイス



代 表 者 名 代表取締役 渥美 和彦
設立年月日 昭和56年8月10日
所 在 地 [本社] 宮城県石巻市蛇田字新下沼40-4
TEL.0225-93-0880/FAX.0225-94-3602
[営業所] 仙台支店
宮城県仙台市宮城野区宮城野1-26-15
TEL.022-791-7551/FAX.022-791-7553
U R L <http://www.digital-p.co.jp/>
資 本 金 2000万円
従 業 員 数 20人
職 種 印刷業
事 業 内 容 図面コピー・大型出力・製本事業、フォトブックや
写真集等のオンデマンド印刷事業

24 時間オンライン受注を実現。印刷から製本まで 一貫した製作体制で 1 冊からの小ロット印刷に対応

テーマ

“どこでもMy Book”商品の試作開発・販路拡大等の設備投資事業(Web環境とオリジナルアプリケーションを活用し、データ出力(写真画像・図面データ)、各種製本の製作)

長年培った印刷部門の特殊製本技術と情報処理部門のデータ加工、通信技術を生かし、部門間連携と他社連携による新たな製本加工、販路拡大のための試作品開発を行う。

事業の内容

事業取り組みの経緯

当社は創業以来、建設図面のコピーや製本を業務の中心としてきた。80年の歴史を持つ青焼き図面(ジアゾコピー)だが、平成27年度に機械保守や材料の販売が終了。近年は顧客が自社で出力するケースも増えており、簡単な図面出力や製本加工方法について検討を重ねていた。また、スマートフォンやデジタルカメラに大量のデータを保存したままにするのではなく「カタチ」として印刷物に残し、将来の大切な思い出づくりを手伝いたいと考えていた。

そこで、本事業では、手軽に注文してもらえるプログラム開発と大型図面出力機や小型高画質出力機、無線綴じ製本機等の設備を導入し、試作品の製作に取り組んだ。

実施内容

CADデータWeb受注システムの開発を外部に依頼。市場で多く使用されているAutoCADソフトに対応し、PDF変換をはじめ、データ出力サイズ、枚数、モノクロ・カラー、製本加工の種類が選定できるプログラムを導入した。

図面製本では、一般的に使用されている二つ折り製本、ビス止め製本、白



ボール製本、ファイル製本に対応できる試作品を製作。“どこでもMy Book”を例とする画像製本では、ソフト製本、ハードカバー製本、上質製本、3面アルバム、特殊アルバムを製作。ユーザーがスマートフォン、パソコンから注文できるシステムを整備。出力サイズや数量、用紙指定、出力内容、モノクロ、カラーなどが細かく選択できるようにした。

成 果

本事業における商品の試作開発、販路拡大、設備投資による成果は大きく分けて2つ挙げられる。1つは工業用図面のデータ出力がWeb上で24時間受注可能となり、データを受け取るための移動時間やコストを削減するとともに、効率的な生産体制を整えることができたことだ。1人当たりの生産加工高が向上し、スピーディーな対応には顧客から満足の声が寄せられた。

もう1つは、スマートフォンやデジタルカメラの画像データを「カタチ」に残す「どこでもMy Book」の開発。Web環境での受注体制が完成し、1冊からの小ロットでも高画質、多種類のアルバムを製作することができるようになった。この技術は宮城県内外のプロスポーツ団体を中心に高く評価され、実績を伸ばしている。



今後の展望

工業用図面出力・製本加工ではWeb環境利用の利便性、情報セキュリティの説明を詳細に行い、県内外に販路拡大を促進。データ出力と保存・活用を並行して利用できる技術の向上とサービスの提供を目指している。また、「どこでもMy Book」を例とすると、画像データ活用では、誰でも簡単に注文できるように、Webシステムの一部改善を進めている。



株式会社デジタルプレイス
代表取締役 渥美 和彦 氏

応募のきっかけ

工業用図面の出力は青焼き図面からCADデータ出力へ移行。時代変化や市場ニーズの変化を踏まえ、これまで当社が培ってきた技術を生かす商品で、従業員が働きがいや自分たちへの自信を感じながら働ける商品、会社として希望を示すことができる商品は何かを考えました。もっと便利でお客様に寄り添った仕事をしたい、発注する側もされる側も笑顔になれる商品を開発したいという思いから、今回小ロットに対応するデジタル印刷・製本技術を活用した事業をスタートさせました。

ひと言メッセージ

「どこでもMy Book」は現在、商品名「ハートブック」として展開しています。撮影する人、撮影される人の心をアルバムに込めたいと考えて名付けました。これからも小ロットに特化したデジタル印刷市場において新たな企画と発想をもって取り組み、当社だから実現できる一生の思い出を、多くの方に「カタチ」としてお届けしたいと考えています。